



平成19年10月29日

各 位

会 社 名 株式会社G S I クレオス
 代表者名 代表取締役社長 加藤 元信
 (コード番号 8101 東証・大証 第1部)
 問合せ先 取締役経営企画部長 松下 康彦
 (TEL 03-5211-1802)

平成20年3月期中間期業績予想の修正および特別損失発生に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成19年5月18日の決算発表時に公表いたしました平成20年3月期中間期（平成19年4月1日～平成19年9月30日）の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成20年3月期中間連結業績予想数値の修正（平成19年4月1日～平成19年9月30日）

（単位：百万円、%）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表予想(A)	53,000	280	0	△ 100
今回修正予想(B)	58,000	650	370	△ 140
増減額(B-A)	5,000	370	370	△ 40
増減率(%)	9.4	132.1	—	—
前期(平成19年3月期中間)実績	57,313	311	247	232

2. 平成20年3月期中間個別業績予想数値の修正（平成19年4月1日～平成19年9月30日）

（単位：百万円、%）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表予想(A)	46,000	90	50	0
今回修正予想(B)	50,000	290	200	△ 180
増減額(B-A)	4,000	200	150	△ 180
増減率(%)	8.7	222.2	300.0	—
前期(平成19年3月期中間)実績	50,144	△ 13	17	152

3. 修正の理由および特別損失の内容

当中間期の業績は、機能性樹脂をはじめとする化成品やインナー用原糸・製品、欧州向け生地取り扱いなどが堅調に推移しましたので、売上高および売上総利益が予想を上回る見込みであり、経営改革策に織り込んだ経費削減もほぼ予定どおりに推移していることから、営業利益、経常利益ともに予想を上回る見込みです。しかしながら、9月18日に「債権の取立不能または取立遅延のおそれに関するお知らせ」にて公表した当社取引先の民事再生法適用申請に伴い、損失見込額283百万円を特別損失に計上いたしますので、当期純利益は前回予想を下回る見込みとなりました。

なお、通期の業績予想につきましては、変更ありません。

(注)上記の予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上